

水稲・大豆の生育と管理

平成30年7月号

北部振興局集落営農・水田班

1. 水稲

◎ 雑草対策～使用時期を確認し、早めの対処を～

雑草発生圃場では、薬剤の使用時期（収穫前日数等）や雑草の葉齢を考慮して早めに処理しましょう。

対象雑草	除草剤名	使用量(10a)	使用時期
広葉雑草のみ	バサグラン粒剤	3～4kg	移植後 15～40日 (収穫 60日前まで)
	バサグラン液剤	500～700ml	移植後 15～45日 (収穫 50日前まで)
イネ科雑草のみ	クリンチャー 1キロ粒剤	1kg	移植後 7日～ノビエ4葉期まで (収穫 30日前まで)
		1.5kg	移植後 25日～ノビエ5葉期まで (収穫 30日前まで)
	クリンチャー EW	100ml	移植後 20日～ノビエ6葉期まで (収穫 30日前まで)
広葉及びイネ科雑草	ハイカット 1キロ粒剤	1 kg	移植後 15日～ノビエ3.5葉期 (収穫 60日前まで)
	クリンチャーバス ME 液剤	1000ml	移植後 15日～ノビエ5葉期 (収穫 50日前まで)

※薬剤ごとに適用葉齢、水管理、使用時期が異なるので、ラベル等をよく読んで使用しましょう。

※注意点

- ・多雨が予想される場合は用水が流出してしまうので散布は避けましょう！
- ・もし、長期間降雨が連続する場合は、排水をしないよう管理しましょう！

◎ スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)はイネの初期生育時に食害をおよぼします。被害軽減のために対策を行いましょう。

○ 耕種的防除

- ・取水口に網を設置し、水田内への貝の侵入を防止しましょう。
- ・浅水管理(水深1cm)で活動が鈍くなり食害防止になります。

○ 薬剤防除

耕種的防除と組み合わせて食害を減らしましょう。

薬剤名	使用量(10a)	使用時期	使用回数
スクミノン	1～4kg	収穫 60日前まで	2回以内

裏面へ

2.大豆

◎種子消毒

種子消毒は種子伝染性の病害予防等に加えて、生育初期の種子腐敗を抑えて発芽率の確保や発芽を揃える効果があるので、必ず行いましょう！

大豆の種子消毒剤

使用時期	薬剤名	使用量	対象
播種前	クルーザーMAXX	乾燥種子 1kg 当たり 8ml	紫斑病、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ、鳥害、苗立枯病
	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1kg 当たり 20ml	紫斑病、鳥害

◎適期播種

大豆の播種適期は7月1日～7月15日です！

播種時期の差が大豆の収穫量に大きな影響を及ぼします。適期播種を行うことで適切な生育を確保し収穫量を増やしましょう。早播きは過繁茂や倒伏、病害虫の増大につながり、遅播きは生育不足につながります。

◎播種の深度と密度

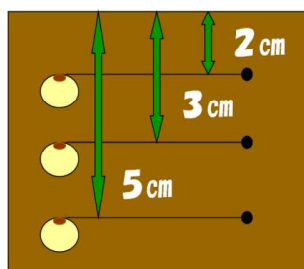
- ・播種深度は出芽率や出芽日数に大きな影響を与えます。
- ・出芽率が低下すると欠株が多くなり減収するだけでなく、欠株部から雑草が発生しやすくなります。
- ・播種密度は播種時期によって変えましょう。

播種時期と播種密度の目安

播種時期	播種密度 条間 × 株間	播種量
7月上旬	75×20cm	4kg/10a
7月下旬	75×10cm	8kg/10a

大豆の播種深度

播種後の天候を予測して播種の深さを調節しましょう!!



- ← 播種直後に大雨が降りそうなら2cm
- ← 基本は3cm
- ← 乾燥が続くそうなら4～5cm
→ 鎮圧をしっかりと!!

◎雑草防除

大豆は初期生育時の雑草防除が重要です。雑草が蔓延してしまうと、競合や病虫害の発生等で、収量が大きく減少します。除草剤の使用時期を確認し、必ず散布を行いましょう！

薬剤名	使用時期	使用量(10a当たり)	希釈 (L/ 10a)
クリアターン乳剤	播種直後 (雑草発生前)	500～800ml	70～100
クリアターン細粒剤F	播種直後 (雑草発生前)	4～5kg	—
ラクサー乳剤	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～600ml (ツユクサ 400～800ml)	100